



## プロフィール

布施 清恵さん  
(栗山)

清恵さんは、今、横芝中学校の3年生です。

3年間、剣道部で活躍、初段の腕前で山武郡市総合体育大会の団体戦にみごと優勝しました。

歌手のイルカや松山千春が好きという清恵さんは、進学希望校も決まり、受験勉強に忙しい毎日を過ごしています。

「学校では、数学と社会、それに国語が好きです。将来は公務員になりたいんです」と話す清恵さん。勉強、スポーツにがんばってください。

先日、広報の縮刷版をめくっていると「親ごころ」という見出しが目についた。

昭和三十八年のもので、国民年金が、義務制になったころの事が書かれていた。内容は、ある人が右足を切断したが、国民年金が未納だったために、障害年金がもらえなくなるところを、その母親が納めておいてくれたので、もらえたという話だった。

この記事を読んで、国民年金に興味を持った私は、その時代を生きてきた祖父に、話を聞いてみた。

「その頃は、役員だったから部落を回り歩いたけれど『何十年も先のことを考えていられるか』と言って、年金制度に反対した人も多かったよ」

このようなことを経てこそ、今のこの時代があるんだなと、しみじみと思った。今では、祖父母とも年金をもらっている。

毎月、各家庭に配られてくる広報。その紙の中には、私が生まれる前からの横芝町の歴史が、確実に残され続けてきたのである。これからも、その時その時のできごとが、つづられていくだろう。

今まで何気なく見過してきた広報だが、今を生きる一人としてこれからはもっと、目を向けていきたいと思う。

## 歴史と広報

横芝中三年 布施清恵さん



身近な話題や、部落での催し物などがありましたら広報係(2-1115)までお知らせください。

掲載された写真をほしい方は、広報係まで。

## 横芝旬会十月例会

土屋 栗水

石川 奇水

粹句城虫鳴く夕べゆきしかな

成田 憐子

爺婆の同じ藁帽稲城掛け

宇井 芝重

針の目は孫を頼りの冬仕度



## 栗島様境内の板碑

栗島様(於幾)の社殿裏に、元禄五年(一六九二)建立という地蔵様と並び、二基の板碑(いたび)が建っています。

この板碑は、地元の旧家小関家(当主喜保さん)の屋敷内に去ったものだそうです。

小関喜保さんの先代代の文吉さんが、何となく体がすぐれず医者に診てもらっても、どうもはかばかしくありませんでした。そこで、占師に卦を立ててもらった

ところ、屋敷内に仏石が埋まっている。それも原因の一つとのことでした。さっそく調べてみると、占いどおりに梵字などが刻まれた板状の石が出てきました。これを洗い清め、庭の隅に祭りますと、文吉さんの体は次第に丈夫になってきました。

板碑のうわさを耳にして、見学に来る人もあり「これは鎌倉時代のもので、常陸産の石と思われるが、歴史的にも価値ある板碑だろう」という有識者の話も聞きました。文吉さんは「この板碑を小関家が私有すべきでない」と

## 横芝の碑

### 象形文字の刻銘?

(一〇六)

母に聞く声の遠しや冬仕度 藤代 ゆう  
向後 雅子  
今年米独りの母に届きけり 鈴木 南知  
貧しきに為すこと多し冬仕度 津田 若葉  
職人にまかす庭木の冬仕度 池田 和代  
新米の感激持たぬ子と朝飼 若梅あやめ  
新米の香りを賞でて今朝の膳 安井ゆづる  
天高し替るバトンは孫の番

五木田煙花  
月を観る旗亭の句座の枝を交へ 海保 きみ  
新米で寿司弁たのし運動会 住母家千夫  
今年米味より多収農ごころ 木下石果子  
新米と卵を持って里の母 秋葉 万治  
老ひまさる体大事や冬に入る 大川 彦一  
新米の一粒宛の艶持てる  
次回 日時 十二月二日  
兼題 凍蝶 冬座敷